

ご参考資料

ピクテ・グローバル・マーケット・ウォッチ 2018年7月3日  
バイオ医薬品

# Pictet Global Market Watch

## 年初来、米国株式を上回ったバイオ医薬品株式

年初から2018年6月末までのバイオ医薬品関連株式のパフォーマンスは米国株式を上回って推移しました。特に5月に米トランプ大統領が薬価引き下げ案を発表以降、市場ではバイオ医薬品企業への影響は大きくないと安心感が広がり、さらに良好な治験結果の発表やM&Aの動きの継続もあり、堅調に推移しています。

### トランプ大統領の薬価に対する演説以降、バイオ医薬品株式は米国株式を上回る

年初から2018年6月末までのバイオ医薬品関連株式(ナスダック・バイオテクノロジー指数、配当込、米ドルベース)の騰落率は+3.1%となり、米国株式(S&P500種株価指数、配当込、米ドルベース)の+2.6%を上回りました。

2018年5月11日の米トランプ大統領による薬価の引き下げ策についての演説と薬価引き下げのための詳細な計画案「米国の患者ファースト」の発表以降、医薬品企業への影響は限定的との見方から、バイオ医薬品関連株式は大きく上昇しました(図表1、2参照)。

その後も、バイオ医薬品関連企業の株価推移に大きく影響を与える「①パイプライン(新薬候補)の良好な治験結果」や「②M&A(合併・買収)の動き」などが続いたことから、2018年5月11日から6月29日にかけてバイオ医薬品関連株式(同上)は+5.9%上昇し、ほぼ横ばいでの推移となった米国株式を大きく上回る上昇率となりました。

### ①パイプラインの良好な治験結果：サレプタの株価が急上昇

「①パイプライン(新薬候補)の良好な治験結果」で特に注目されたのは、サレプタ・セラピューティクス(米国)でした。同社はデュシエンヌ型筋ジストロフィーの新薬候補である遺伝子治療のフェーズ1/2試験において、非常に有望な治験の途中結果を発表しました。この発表を受け、サレプタ・セラピューティクスの2018年6月19日の株価は、前日比+37%の143.93ドルまで上昇しました。

また今回の発表は、新しい治療法として期待の高い遺伝子治療の治験についての有望な結果であったことから、同様にスパーク・セラピューティクス(米国)やソリッド・バイオサイエンシズ(米国)、リジェネックスバイオ(米国)など遺伝子治療関連で研究・開発を進めているパイプラインを持つバイオ医薬品関連企業の株価も連れ高となり、バイオ医薬品関連株式全体をけん引しました。

また2018年6月29日には、セルジーン(米国)とアクセロン・ファーマ(米国)が共同で開発を進めている骨髄異形

図表1: バイオ医薬品関連株式と米国株式の推移

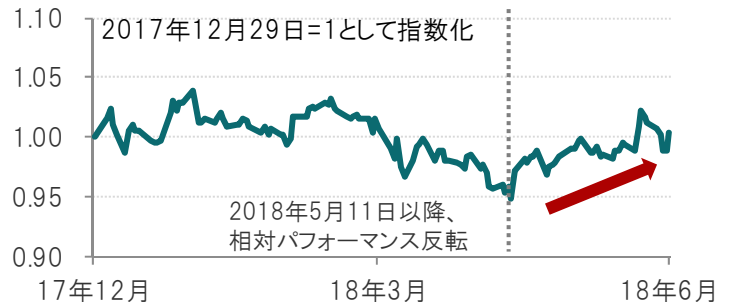
ドルベース、日次、期間: 2017年12月29日~2018年6月29日



17年12月 18年3月 18年6月  
※バイオ医薬品関連株式: ナスダック・バイオテクノロジー指数、米国株式: S&P500種株価指数、すべて配当込  
出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

図表2: バイオ医薬品関連株式と米国株式の相対パフォーマンス推移

ドルベース、日次、期間: 2017年12月29日~2018年6月29日



17年12月 18年3月 18年6月  
※相対パフォーマンス: バイオ医薬品関連株式/米国株式  
バイオ医薬品関連株式: ナスダック・バイオテクノロジー指数、米国株式: S&P500種株価指数、すべて配当込  
出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

成症候群(MDS)治療薬候補のフェーズ3試験において良好な治験結果を発表しました。この結果を受けてアクセロン・ファーマの株価は前日比+42.8%、セルジーン(米国)の株価は同+3.6%上昇しました。

米トランプ政権による5月の薬価引き下げ策発表以降、バイオ医薬品関連業界に安心感が広がる中で、良好な治験結果の発表が続いていることが、バイオ医薬品関連株式の株価上昇の一因となっているといえます。

<次ページに続く>

(※将来の市場環境の変動等により、記載の内容が変更される場合があります。)

記載されている個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、当資料におけるデータは将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

## ②M&Aの動き： 年初よりM&Aの発表が続く

2018年5月10日に米国の大手医薬品企業イーライ・リリーが米国のバイオ医薬品企業ARMOバイオサイエンシズを発表前日の株価を67.7%上回る1株あたり50ドル、総額16億ドル(約1,760億円)で買収することを発表しました。がん治療薬のパイプラインを有するARMOバイオサイエンシズの買収により、イーライ・リリーはがん分野の強化に繋がります。

これ以外にも、2018年にはサノフィ(フランス)によるアブリンクス(米国)やバイオベラティブ(米国)の買収、セルジーン(米国)によるジュノ・セラピューティクス(米国)の買収、武田薬品工業によるシャイアー(アイルランド)の買収など多くのM&A(合併・買収)案件が発表されました。

大手医薬品企業や大手バイオ医薬品企業がパイプライン拡充のために有望なパイプラインや独自の技術、高い開発能力を持ったバイオ医薬品企業を買収する動きは、引き続き継続していくものと考えます。

バイオ医薬品関連株式については、市場での注目度の高いパイプラインの治験が失敗、もしくは期待ほどの結果が得られなかった場合には、それを開発しているバイオ医薬品企業だけでなく、バイオ医薬品セクター全体のモメンタムを悪化させる可能性があります。また、株式市場全体が調整する局面では、相対的に株価の変動が大きなバイオ医薬品関連株式は、調整の幅がより大きくなる可能性もあり、注意が必要と考えます。

一方で、「①パイプライン(新薬候補)の良好な治験結果」の発表や「②M&A(合併・買収)の動き」は、今後も継続し、これらの要因は株価にとってプラスに働くものと考えます。

(※将来の市場環境の変動等により、当資料記載の内容が変更される場合があります。)

記載されている個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、当資料におけるデータは将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

### 当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものではありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。